

JR美祿線災害復旧対策調査特別委員会

- 1 日 時 令和5年11月29日(水曜日)  
午前11時34分～午前11時43分
- 2 場 所 委員会室(議場)
- 3 出席委員 村 田 弘 司 委 員 長                      石 井 和 幸 副 委 員 長  
                 荒 山 光 広 委 員                      山 中 佳 子 委 員  
                 三 好 睦 子 委 員                      高 木 法 生 委 員  
                 岡 山 隆 委 員                      秋 枝 秀 稔 委 員  
                 猶 野 智 和 委 員                      坪 井 康 男 委 員  
                 杉 山 武 志 委 員                      藤 井 敏 通 委 員  
                 岡 村 隆 委 員                      田 原 義 寛 委 員  
                 山 下 安 憲 委 員
- 4 欠席委員 な し
- 5 委員外出席議員  
                 竹 岡 昌 治 議 長
- 6 出席した事務局職員  
                 岡 崎 基 代 議 会 事 務 局 長                      石 田 淳 司 議 会 事 務 局 議 事 調 査 班 長  
                 阿 武 泰 貴 議 会 事 務 局 庶 務 班 長
- 7 説明のため出席した者の職氏名  
                 な し
- 8 会議の次第は次のとおりである。

午前11時34分開会

○委員長（村田弘司君） ただいまより、JR美祢線災害復旧対策調査特別委員会を開会をいたします。

議長、報告事項等ございましたら、いかがでしょうか。

○議長（竹岡昌治君） 特段、報告ということじゃございませんけど、委員会を始める前に、私の思いついて言ったら失礼ですが、お伝えしたいと思うんですが、本委員会は、JR美祢線の完全復旧を目指すためにつくったものでございますが、JRの思いとですね、我々——どう言ったらいいですか、地域の思いといたしますか、その辺に大きなずれがあるかと思えます。

しかしながら、どうぞ皆さん方には、地域住民の皆さんの意向を斟酌していただき、議論を深めていただきたいと、このようにお願いを申し上げまして、ぜひ、委員長さんのほうでよろしくお願い申し上げたいと思えます。

○委員長（村田弘司君） それでは、始めたいと思えます。

この特別委員会は9月議会において設置されました。9月28日の第1回目の会議では、正副委員長を決定したところであります。本日が、第2回目の会議ということになっております。

最初に、いま一度の確認になりますけれども、本特別委員会の目的は、6月末の豪雨により、橋梁の流出など甚大な被害が発生し、現在不通となっているJR美祢線の早期完全復旧でありますので、そのことを踏まえ、これからの調査を進めていきたいと思えますが、委員の皆様方よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） 三好委員。

○委員（三好睦子君） 今、議長がずれが——議長の発言の中に、市民とずれがあるって言われましたけれど、どんなずれなのか、ちょっとお尋ねします。（発言する者あり）

○委員長（村田弘司君） ちょっと三好委員、いいですか。

本特別委員会は、今、議長は、議長の立場で、あくまでオブザーバーですから、思いを伝えられただけです。ですから、そういうことに対して、この本特別委員会として質問する権限を持っておりませんので、その辺のこと、ちゃんと御了知いただいて、後の御質問よろしくお願ひしたいと思えます。いいですか。

それでは、続きます。

今、先ほど私が申し上げたことに対して、了という言葉をちょうだいしましたんで、それでは、その方向で特別委員会を進めさせていただきます。

次に、12月13日水曜日になりますけれども、開催の本特別委員会が、実質的に調査を行う最初の会議というふうに考えております。

また、市民の皆様にはJR美祢線の現在の状況について、お知らせする機会でもあろうかというふうに思っております。

その調査事項といたしまして、1つにJR美祢線の被災状況について、2つ目としてJR美祢線災害復旧対策室の動向について、3つ目として代行バスによる運行状況、課題等について、この3項目を考えておりますが、項目の追加も含め、委員の皆さんの御意見があればお伺いをしたいというふうに思います。いかがでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） それでは、私が先ほど申し上げた調査事項について、次の特別委員会を行うことに御異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） それでは、次回12月13日水曜日の特別委員会では、先ほどの調査事項にて委員会を行うことといたします。

その他、委員の皆さんから何かございましたら、御発言をお願いします。坪井委員。

○委員（坪井康男君） 私のね、この問題に取り組む基本姿勢と申しますか、それは、もう何としてでも美祢線復旧をしてほしいと、それに変わりはありませんが、ただね、その前提になる、これ、参考情報として聞いてください。

というのは、来年、美祢線全線開通100周年と言いますよね。そんなことは、私はどうでもいいんですよ。美祢線ができてから何年たちますか、基本的なことですか。それはね、日露戦争の年ですよ、明治47年。大嶺炭坑から無煙炭を徳山海軍燃料所に送って、ほいで、海軍燃料所で軍艦の燃料として仕上げ、その軍艦に――軍艦がですよ、バルチック艦隊と戦ったのか戦ってないのかと。どうでもいい話です。

ただね、知っとしてほしい。残念ながらね、時期は同じです、明治47年です。残

念ながら、当時の無煙炭は、まだ東郷平八郎艦隊にね、（聞き取り不可）どこの石炭かって。イギリスのウエールズ炭です。イギリス産です。で、イギリスから貨物船に乗せて、えっちらほっちら輸入した。で、途中でかなり自家燃料で消費するんですよ。日本に着いたときは、かなりリフレッシュと。それを徳山海軍燃料所に上げて、それで、結果的には10艦隊積んだんですがね。余計なことちょっと言います。当時ね、バルチック艦隊が対馬海峡を通るか、青函——あれは何ていうんですかね、青森何とか……

○委員長（村田弘司君） 津軽海峡。

○委員（坪井康男君） 津軽海峡通るか、当艦隊にとって大問題なんですよ。つまりね、青函までを通るっちゅうことになるとね、軍艦に燃料がいっぱい積んで、そして、おらんといかんと。で、取りあえず積んだんですよ。ところがね、奄美かどっかで敵艦見ゆっちゅうね、連絡入って、それが、通信所を通じてね、やっぱり、対馬海峡と、こうなったんですよ。そしたら、せっかく輸入した高価な石炭を全部統合艦隊は捨てたんです。そして、あそこで待ち伏せした。その結果ね、やつけたんですよ。

で、そういうね、由緒ある話なんです。特に美祿市は、そのことを皆さんによく頭に入れとってほしい。残念ながら間に合わなかったけど、だけど、そのあと、随分役に立ったんですよ、大嶺炭がですね。

何が言いたいかというね、それから120年ですよ、何事もなかったのに、この13年の間に2回も駄目になった。これ一体何を意味してるか。やっぱりね、地球温暖化のせいなのか、線状降水帯のせいなのか、厚狭川をしゅんせつしてなかったせいなのか。厚狭川っちゅうのは、昔、四郎ヶ原までね、河口から川船が通ってたんですよ。宮崎義則さんっていう——有名な方がいます。その方は、何回も美祿市の歴史講座でお話しされてます。

ということはね、それまではもう随分四郎ヶ原まで、厚狭川の河口からしゅんせつしてるんですよ。それを怠ったのかどっちなのか、ということをしっかりね、頭に置いて、幸いなことに、何か県のほうで60億円、厚狭川しゅんせつの予算が決まったそうですね。これ、大変いいことだと思うんで、やっぱり私はね、人為的にしゅんせつしなかった厚狭川が埋まった成果と思ってます。

参考までに、ちょっと意見申し上げた。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 坪井委員から、美祢線の完全復旧に向けて、歴史を踏まえた熱い思いを語っていただきました。ありがとうございました。

ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） それでは、熱い熱を持ったまま、これにて本会議を終了いたしたいと思います。

御協力、誠にありがとうございました。お疲れでございました。

午前11時43分開会

---

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和5年11月29日

JR美祢線災害復旧対策調査特別委員会委員長